

2025 年度（令和 7 年度）

事 業 計 画 書

— 2025 年 3 月 10 日 —

公益財団法人国際高等研究所

事業計画書

目次

『前書き』	・・・ 1
I. 事業活動	
『1』研究事業	・・・ 2
『2』交流事業・人材育成事業	・・・ 4
『3』けいはんな学研都市における他機関との連携活動	・・・ 10
『4』情報発信活動	・・・ 11
II. 法人運営	
『1』資産運用	・・・ 12
『2』経費支出に係る暫定措置の解除	・・・ 13
『3』高等研施設の利用促進	・・・ 13
III. 2024年度（令和6年度）財務・収支計画	
『1』経常収益	・・・ 13
『2』経常費用	・・・ 13
『3』最終収支	・・・ 13

公益財団法人国際高等研究所
2025 年度（令和 7 年度）事業計画

1. 国際高等研究所の存在意義が試される新たな研究戦略の構築

2020 年 1 月に顕在化した新型コロナウイルス感染症は、5 年目を迎えた今日でも、完全に終息したとは言えず、世界的に人々が命の重さや健康に敏感になった時はなかったのではないか。2022 年 2 月には、ロシアが隣国ウクライナに全面的な軍事侵攻を行った。民間人を含む多くの人命が失われ、EU や米国をも巻き込み、3 年目を迎えた今年に漸く和平が実現するか期待がかかるところであるが、安全保障上の大きな課題を突き付けている。2025 年 1 月のアメリカ大統領の交代に伴う米国政治の変革は、国際的な問題にも発展する可能性を秘めており、一方の EU 各国でも極右政党の台頭に伴う政治情勢の脆弱化は、世界秩序にとって不確実性を惹起していると言える。

これらの地球社会の持続可能性を脅かすであろう世界的危機への適応性や回復力を人類が獲得し、それへの適切な対処法を、グローバルな観点から探究することは、学術研究機関である公益法人としての高等研に課せられた大きな責務であることを痛感しているところである。

パラダイムシフトが要請されるこれから的新たな社会像を求め、人類社会の持続可能性についての根源的な課題を学術的に探究し、混迷する世界への処方箋を世界に向けて発信することが、高等研に課せられた喫緊の課題に他ならない。学術機関としての使命が問われている。

財団法人として創設されて 40 年を越えた高等研では、その根本を成す基本理念として「人類の未来と幸福のために、何を研究するかを研究する」ことを掲げ、課題探索型の基礎研究を学際的に取り組むことを通じて持続可能社会の実現に資する活動成果を社会に還元することを旨としている。今日までの高等研の 40 年の歴史・経緯を踏まえ、高等研の存在意義及びこれからの高等研の方向性を再確認し研究戦略を再構築することが求められる。

2. 今後の研究活動の指針

以上のような新たな研究戦略の意義及び事業活動を進める背景を踏まえ、2025 年度の事業活動は、学術研究機関として学術研究に課せられた責務を果たすべく研究者の結集を図る研究事業を中心に据え、「けいはんな万博 2025」のテーマにも繋がり得る若手研究者の育成を狙う方策の具体化を図る必要がある。さらに公益法人としての使命として、一般の住民を対象とする公開事業の充実・強化を推進することが求められる。

分野を越えた研究者が自由な立場で一堂に会し、討議することを旨とする高等研にあって、2025 年大阪・関西万国博覧会を契機に開催される「けいはんな万博 2025」との連携を視野に、国連持続可能な開発目標 (SDGs)への対応等、広く社会の動向を見極めながら事業展開を図るとの目標を掲げ、高等研の各種事業活動を通じて、パラダイムシフトが要請されるからの新たな社会像を求めるものとする。

評議員会でのご意見を踏まえ、中長期的な視点に立って、原点に立ち返り、高等研の高邁な基本理念を尊重し、理念の今日的解釈を踏まえた研究活動の再構築を図らなければならない。そのためには、高等研の法人ガバナンスの強化及び研究所としての研究事業を中心としつつ交流事業との連携を図る事業運営にあり方を再考・模索する必要がある。

また、所長の再任を踏まえ、研究体制の高度化・改革などの準備を進めることとする。

2025 年度(令和 7 年度)の事業計画案は下記のとおりである。

I. 事業活動

『1』研究事業

○2025年度の研究活動

国際高等研究所は、1984年の創設以来、「人類の未来と幸福のために何を研究するかを研究する」ことを基本理念とし、学問分野の壁を越え研究者が結集して、人類社会が直面する諸課題に関する学際的研究を進めている。学問領域や専門分野のみならず、世代、組織、国籍を越え、研究者が横断的に集い研究を進めるという特徴（Beyond Boundaries）を、創設以来今日まで継承している。

高等研は、けいはんな学研都市地域という日本が培ってきた歴史、文化、芸術、技能、風土と先端研究とが交差する環境の中にある、この地域の住人や職業人と物理的にも心情の面でも近い。人間や人々の生活を意識しながら、学術的研究に基づいて、課題の発見から解決までを総合的に取り組むことができる位置にある。

このような特徴を生かした研究を行い地域社会に貢献するとともに、学術研究や社会のあり方を考え、次世代を担う若者が希望を持てる未来社会の実現に向け研究活動を進めていく。

○活動全体の構想

これまでの高等研の取り組みは、それぞれに意味や役割を考えて実施してきたものである。それゆえ拡張がある一方で、全体の方向性が見えにくい傾向にある。2025年度は「何を研究するかを研究する」基本理念のもと活動全体を構想し、個々の活動が横の繋がりを持ち相互作用しながら発展・循環していく、一貫性のある活動（One IIAS）を目指す。

2025年度上半期は、学術や政策課題の世界動向、社会情勢、高等研の歴史や特徴などを踏まえ、今後の活動の企画と立案を行う。その際、活動全体のねらいを議論し、具体的なテーマ・実施方法と、それらの全体構想の中での位置付けを検討する。

検討の主体は所内会議とし、必要に応じ、研究企画推進会議委員等の関係者や外部有識者との意見交換を行う。下半期には実施段階に移行、具体的な活動を始動する。

(1) 自主研究

「科学技術の動向とロボティクスの将来」は、2025年度開催の大阪・関西万博との関連も踏まえた上で、継続について検討する。「持続可能でレジリエントな社会実現に向けた学際共創の方法の開発と実践研究」は、「全国キャラバン3 QUESTIONS」が全国展開中であることから、2025年度も継続する。「人を健康と幸せに導く「意識」に関する研究」は、けいはんな万博2025の4テーマの中の「ウェルビーイング」に関連が深いため、けいはんな万博2025における市民との議論の可能性を探る。

①科学技術の動向とロボティクスの将来 — ロボティクスと家庭の関係 —

研究代表：小寺秀俊（国際高等研究所副所長、京都大学名誉教授・特任教授、大阪大学特任教授）

けいはんな学研都市がロボットおよびロボティクスの研究開発と事業化の拠点であることから、ロボットとロボティクスさらには、human augmentation（人間と技術の一体化による人間の能力の拡張）における研究開発の現状を調査するとともに、今後の方向性を議論する。

ロボットおよびロボティクスに関しては京都府による推進計画のヒアリング、ロボティクスに関しては理化学研究所のロボティクス研究等の状況や今後の方向性をヒアリングすると共に、Human augmentation 技術の今後の方向性とその倫理に関する議論を行い、結果をまとめる。

②持続可能でレジリエントな社会実現に向けた学際共創の方法の開発と実践研究

研究代表：有本建男（国際高等研究所チーフリサーチフェロー、科学技術振興機構参与、政策研究大学院大学客員教授、国際学術会議（ISC）フェロー）

研究副代表・実行責任者：宮野公樹（国際高等研究所客員研究員、京都大学学際融合教育研究推進センター准教授）

学問領域や分野、世代、大学の境界を越えて、研究テーマそのものを深掘りする全国規模の研究ポスター発表大会を2年間かけて実施する。全国を9地区に分け、各地区における幹事校を拠点に、その地区の研究者からなる100人規模の大会とする。

単に多様な学術分野が集まつた発表ではなく、越境の工夫や、本音で対話できる仕組みを組み入れることで、自身の研究を深く問う場となることをねらう。共同研究の創出による研究の進展のみならず、研究者個々人の研究精神の深化を促し、さらにそれを全国規模で展開することで、我が国の学術界の基盤と文化の醸成を目指す。

2025年度は4地区(東北、関東、関西、九州・沖縄)で開催する計画である。

③人を健康と幸せに導く「意識」に関する研究 — 関係性との関連を手がかりに —

研究代表：高見茂（国際高等研究所チーフリサーチフェロー、京都光華女子大学学長、京都大学名誉教授）

健康や幸せを実現している人々に共通する要素として、「関係性」の存在（良好な人間関係、つながりの感覚）が指摘されている。予防医学等の観点からは、健康には「食事」「運動」の他に、「意識」が重要であるとされている。また、世界幸福度ランキングにおいても、「意識」と幸福度の関連が見てとれる。

そこで本研究では、健康と幸せを実現する「意識」をテーマとする。特に病気が劇的に寛解した事例に着目し、事例群に共通してみられる意識の傾向や要素の抽出を試みる。けいはんな学研都市地域住民の幸福度向上の手立ての一つとして、人を健康と幸せに導く「意識」を明らかにし、「先端幸福創造都市けいはんな」の実現に貢献することを目指す。

なお、けいはんな万博2025においては、けいはんな万博運営協議会のウエルビング部会で検討が進められている Festival#2 が「ウエルビング」を主軸として行われるイベントであることから、本研究プロジェクトについては、当該事業への参画をも視野に入れて活動を計画することとする。

◎けいはんな万博2025協賛シンポジウム

開催日：2025年6月14日（土）

場所：けいはんなプラザ中会議室

テーマ：健康寿命伸長への提案—ウエルビーイングと「意識」の関係性—

位置付け：けいはんな万博2025「ウエルビーイング」関連イベントとして開催

(2) 公募研究

2023年10月より2年間の計画で以下の研究を実施している。本研究については、

2025年9月の終了に向け取りまとめを行う。

○グローバルな分配的正義を促進する科学システムと科学者の役割に関する研究

研究代表：新福洋子（広島大学大学院医系科学研究所教授）

分野横断的な若手・中堅の研究者ネットワークを形成し、分配的正義の観点から、より包括的で公平、かつ平等な科学システムと科学者の役割を検討する。また、未来に続く若手世代がそうした議論に参加し、国際的な活動のスキルを向上することを目的とする。

具体的には、分配的正義、科学ディアスボラ、科学技術外交、特に現存する国際団体の役割に関する最近の動向について、文献調査、国際会議の参加者からの聞き取りによる調査を行う。また、国際会議に合わせてイベントを組み、議論を展開する。それらの議論の結果を積み上げ、論文として発表する。プロジェクトの終盤には、この活動を継続するために必要な組織体制を構築すべく、ネットワーク内にて協議を行う。

（3）研究企画推進会議

本会議の俯瞰的、長期的視野からの助言及び提言は、研究活動の推進や方向性の検討、高等研の将来構想を進める上での指針となっている。引き続き、本会議からの助言や提言を研究事業に反映させる。2025年度は第6期を始動する。スタートにあたり、委員構成について検討のうえ、第6期委員を任命する。

（4）高等研版白眉研究者制度

高等研版白眉研究者制度は、ポスドク研究者への金銭的支援と身分の提供を行うものである。新たな研究領域の芽を発掘すると共に、世界トップレベルの研究者として活躍し次代の学術を担う人材を育成することを目的とする。高等研の研究活動全体の構想に組み入れながら、本制度の実施について検討する。

また、当該事業化には当初計画では多額の資金的裏付けが必要であることから、当初検討していた制度とは異なる当該事業の制度設計も含めて熟考し、支援企業獲得に繋がる選考方法を検討することとする。

『2』交流事業・人材育成事業

交流事業は、研究事業と並ぶ公益財団法人国際高等研究所の柱となる事業の一つである。交流事業においては、次代を視野において、国内外の学術研究動向に関心を寄せるとともに、現代社会の課題解決への志向に関心を寄せ、新たな社会の形成への貢献を旨として事業内容を検討・整理し、展開することとする。

なお、事業展開に当たっては、けいはんな学研都市における「产学研公住連携」の強化に意を用い、特に、その中核機関との連携を密にしながら、各種団体のネットワーク力に依拠しながら積極的に市民参画を求め、また、次代を担う若者の参加を促し得る工夫を凝らすこととする。

【基本方針】

2025年度は、引き続き、交流事業の基本方針を「交流活動に関わる方々との活動を通じて、高等研の基本理念*を体現する」と定め、活動を企画し展開する。

(*高等研の基本理念：「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」)

- ◇ 「ゲーテの会」を中心とする<「新たな文明」の萌芽、探求を！>プロジェクトの活動は、4年目を迎えることから、「量子」「文明」「生命」に続く四つ目テーマ「資本」を掲げて事業を企画する。
- ◇ 「エジソンの会」の活動については、引き続き、社会の関心の半歩先を行くようなテーマを選定し、そのテーマにふさわしい適切な講師に登壇をお願いして、年4回の開催を目指す。
- ◇ 「IIAS 塾ジュニアセミナー」は開講以来10年目を迎えることから、改めて総括し、時代の要請に応しい内容・形式での再興を企図するため、2025年度は休講とする。
- ◇ 「IIAS 塾ジュニアセミナー・ホームカミング」は、「IIAS 塾ジュニアセミナー」の在り方検討に歩調を合わせて今後の展開方向を検討するため、今年度の開催は見送ることとする。
- ◇ IIAS「ゲーテの会」ブックレット等、交流事業により蓄積された知的資産の一般公開の取組みは、市民の自律的学習の便として有効であり、「交流活動の資料公開」事業として継続する。

【2024年度交流事業の概要と2025年度活動計画】

2-1 「ゲーテの会」を中心とする<「新たな文明」の萌芽、探求を！>プロジェクト

1)これまでの取組みと2025年度の方針

本プロジェクトはけいはんな学研都市建設のきっかけとなった『成長の限界—人類の危機レポート』ローマクラブ（1972年）から50年目を機に、2022年度から開始している。原点に立ち返って未来を考えるのコンセプトの下に、「ゲーテの会」での問題提起を踏まえ、それに続く「meta 鼎談」「市民懇談」では、専門家と共に、市民をはじめ立地研究機関・企業等の参画の下に、より深く、より多面的に、そしてより広く討議する場を提供することとしている。

2025年度（第4年度）のプロジェクトの共通テーマを「資本論」とし、2022年度（初年度）：「量子論」、2023年度（第2年度）：「文明論」、2024年度（第3年度）：「生命論」を受けて、人類的、文明論的視点を持って議論する予定である。

2)2025年度の各事業の計画

①満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」

2013年8月に有志の企画で発足し、2013年12月開催の第5回から高等研の正式な交流事業と位置付けられ、2024年5月末までに計94回を開催し、第74回（2019.8.20）から第94回（2024.5.23）の計21回で、合計871名の方々に参加頂いている。高等研が関西文化学術研究都市の中核機関として「知的ハブ」機能を果たすイベントの一つとなっている。発足以来、概ね2年間を1ステージとして主テーマを掲げ、事業を展開してきた。第1ステージ：「経済至上主義、科学技術至上主義からの脱却を求めて」、第2ステージ：「日本の未来を拓くよすが（拠）を求めて」、第3ステージ：「未来に向かう人類の英知を探る」であった。2019年度からの第4ステージでは「『新しい文明』の萌芽を探る」をテーマにして実施してきた。

2025年度（第4年度）は、<「新たな文明」の萌芽、探求を！>プロジェクトの共通テーマが「資本論」（～「資本主義」の未来を探る～）であることから、次の内容で対話型

講演会を開催する。

«第 96 回「ゲーテの会」»

開催日時：2025 年 5 月 13 日（火） 満月の日 18:00～20:00

テーマ：「資本主義」の力と文明の行方（仮題）

講師：岩井 克人氏（東京大学名誉教授、令和 5 年度文化勲章受章：経済学）

開催方式：ハイブリッド（対面・オンライン）方式

場所：国際高等研究所 コミュニティホール

また下期にも、共通テーマ「資本論」を念頭に置いて第 97 回「ゲーテの会」を開催する予定である。

②meta 鼎談（哲学×科学×技術）

本企画は、「「哲学」なき「科学」／「科学」なき「技術」」、逆に「「技術」なき「科学」／「科学」なき「哲学」」の弊について強い問題意識を持って企画構想したものであり、「ゲーテの会」で論じられた課題を踏まえて、「哲学」、「科学」、「技術」の異なる分野の専門家 3 名を招聘してクロス討議（鼎談）を行い、「新たな文明」の萌芽の探求に繋げていこうとするものである。この鼎談の参加者には、後に続く「市民懇談」にも対面参加を求め、参加者には事前に質問事項や討議希望事項などについてアンケートを求め、市民参画型の鼎談として開催する。なお、鼎談の様子は zoom ウェビナーにより事前登録者にオンラインで全国配信している。

2025 年度（第 4 年度）は、その共通テーマ「資本論」に従って、以下を内容で計画中である。

«第 4 回「meta 鼎談（哲学×科学×技術）」»

期日：2025 年 7 月 12 日（土）14:00～17:00

モティーフ：「資本主義」の未来（仮）

講師（予定）：

- ・経済倫理：占部 まり氏（内科医、宇沢国際学館 代表取締役：宇沢弘文氏の長女）
- ・経済人類学：松村 圭一郎氏（岡山大学 准教授）
- ・企業経営：熊野 英介氏（アミタホールディングス（株） 会長）

開催方式：ハイブリッド（対面+オンライン）方式

場所：国際高等研究所 コミュニティホール

備考：meta 鼎談については、京都府の助成金（けいはんな学研都市・文化力強化推進事業補助金）：85 万円を受けての実施を見込む。

③市民懇談（roundtable）

「皆が専門家、皆が素人」のキャッチフレーズの下に、文明論的課題を、住民自身が能動的、かつ、主体的に議論し、「新たな文明」の萌芽を探究しようとするものである。討議項目・内容についても、対面参加者の幾人かに話題提起していただくなどし、それを受け、メンターのご指導と、モダレータの進行の下に議論していくいただく。討議に参加される対面参加者は、主に、けいはんな学研都市の市民や立地研究機関・企業の関係者、学生など「meta 鼎談」の参加者で、「市民懇談」に先立って開催される「ゲーテの会」や「meta 鼎談」の内容を踏まえて、一定の知見をもって参加していただくこととしている。

なお、懇談の様子は zoom ウエビナーにより事前登録者にオンラインで全国配信している。

2025年度（第4年度）は、その共通テーマ「資本論」に従って以下の内容により取組む。

《第3回「市民懇談（roundtable）」》

期日：2025年9月下旬（土）14:00～17:00

モデレータ：（未定）

メンター：「meta 鼎談」の講師（予定）

開催方式：ハイブリッド（対面＋オンライン）方式

場所：国際高等研究所 コミュニティーホール

④文明論研究会

本プロジェクトの成果イメージとしての学習ネットワーク（市民アカデミー）の形成への橋頭堡として、2023年度に「市民学習サロン（古典を読む会）」を立ち上げ、試行的にゲーテ著『ファウスト（第2部）』を対象に、2024年度にかけて6回の読書会を開催した。

本読書会は、ゲーテに造詣の深いドイツ文学者の高橋義人先生をメンターに迎えて開催したこともあり、そこで交わされた市民有識者との議論は本プロジェクトのこれから展開にとって極めて有意義なものであった。

こうした点を踏まえ、2025年度より、当会合に「文明論研究会」の名を冠し、本プロジェクトの的確な運営に資する市民参加の学習とともに研究企画の場としても位置付け、多様な参加者の確保等その機能の充実を図ることとする。

なお、2025年度は、ゲーテの思想の源泉ともなったスピノザ著『エチカ』を取り上げ、これまでの議論の継続的発展を目指す。

⑤「フォローアップ・プロジェクト検討会」の開催

2025年度の前半の取組み（「ゲーテの会」「meta 鼎談」「市民懇談」）を終えた時点で、本プロジェクトに関心を寄せる多様な中核メンバーにお集まり願い、当該年その取組みに関する総括とともに、次年度以降の取組みに関して意見をいただくため、「フォローアップ・プロジェクト検討会」を開催し、本プロジェクトの企画内容の充実につなげる予定である。

2-2 「エジソンの会」

1) これまでの取り組みと2025年度の方針

2016年6月のエジソンの会発足以来、過去48回（2025年2月開催まで含む）の会合を開催し、延べ2,163名に参加頂いている。発足当初は、取り組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能（AI）として、その焦点を絞ることとし、当初はAIとは何かを中心に据えて、AIの最新動向や知識の共有とともに、AIのもたらす社会への影響を考え、その指針を確立することとして活動した。

2019年度からは、未来社会の在り方を想定して、そこから見出される科学・技術・社会の相互作用の重要性を踏まえ、そのための「ネットワーク構築」と「協業を生むための土壤づくり」に主眼をおいた活動を実施している。また、我々の生活や社会に大きな影響

をもたらすと思われる分野・技術に焦点を当てて、未来に向けて取り組むべき研究対象や技術開発対象は何かを考察した。

2024年度は、前年に引き続き、サイエンスの進歩とそれによるテクノロジーの発展を踏まえて、未来社会の在り方を想定して未来を考える機会とした。

2) 2025年度の計画

「未来に向けて取り組むべき研究開発」を年間テーマとして、未来社会におけるいくつかのテーマを想定し、そこで重要となる分野と技術に焦点を当て、参加いただく各企業・機関が個々のニーズへの展開を想定することが出来るようとする。

- ・原則4回/年の会合の開催を予定。
- ・学術界および企業・機関より、毎回2名ないし3名の講師を招く。
- ・開催場所：国際高等研究所 レクチャーホール
- ・開催方式：対面方式（クローズの場の特性を活かし、「ここだけの話」を披露頂く）

『第49回「エジソンの会』（企画中）』

開催日：2025年4月25日（金）14:00-18:00

テーマ：『2024年ノーベル賞 AI（人工知能）研究が初の快挙』（仮題）

講演者①：上田 修功氏（理化学研究所 革新知能統合研究センター（AIP）副センター長）

演題：「人工ニューラルネットワークによる機械学習～その発明と応用～」（仮題）

講演者②：大上 雅史氏（東京科学大学 情報理工学院 情報工学系 准教授）

演題：「AlphaFold～タンパク質の立体構造予測がもたらす未来の創薬・医療～」（仮題）

2025年度は、他に以下のようなテーマを取り上げ、それらの革新性や本質に触れて頂くような企画としていく。

- ・新たなコンピューティングの世界 その可能性と未来
～リザバーコンピューティング、DNAコンピューティング、光量子コンピューティング、量子コンピューティング～
- ・AI／生成AIの最新動向
～今、もっとも注目されるスタートアップ企業たち～
- ・バイオテクノロジーの最前線
～無限の生命を得る～
- ・人類の進化と人間の能力拡張
～人、アンドロイド、サイボーグ～

2-3 「IIAS塾ジュニアセミナー『独立自尊の志』養成プログラム」

1) これまでの取り組み

「IIAS塾ジュニアセミナー」は、「ゲーテの会」等の講師の協力を得て、その講演録を基に学習教材（メインテキスト、講義動画等）を作成し、18歳前後の高校生・大学生を対象に、学校の教科を超えて、次代を照らす素養（リベラルアーツ）の学修機会を提供することとしている。開催形式は、対面・合宿方式を基本とし、参加者相互が文字通り寝食を共にし、議論・交流する機会としている。

2016年3月の初回開催から2024年8月までに16回の開催を重ね、延べ190校から365

名が参加し、受講生のみならず、教育関係者からも高い評価を得ている。また2021年度から2023年度までは三菱みらい育成財団の助成を得、講義動画の作成を進めオンデマンドによる事前学習機会を提供するなど取組み内容を充実させてきた。

2024年度夏季「IIAS塾ジュニアセミナー」は、コロナ前と同様の対面・合宿方式で8月7日、8日、9日の2泊3日で実施し、10校から受講者22名の参加があり、講師5名（うち体験学習：2名）、TA（ティーチングアシスタント）6名で指導に当たった。

「体験学習（心身の学）」では、本セミナーの理念でもある理性（哲学）分野とともに感性（芸術）分野の学習による全人教育を志し、造形作品の共同創作を通じて体得する「もう一つの知、身体知」をテーマとして特色ある取組みを行った。

《2025年春季「IIAS塾ジュニアセミナー」》

2024年度に開催する2025年春季「IIAS塾ジュニアセミナー」は、以下の概要のとおり開講予定である。

開催日：2025年3月26日（水）～28日（金）（2泊3日）

開催方式：対面・合宿方式

プレミーティング（オンライン方式）：3月16日（日）

受講生：高校生及び大学生20名（公募済）

参加費：@1万円（宿泊・食事代向け）

宿泊：国際高等研究所住宅施設

① 思想・文学分野

　　テーマ：『ベルクソンに学ぶ

　　～本能、知性、そして直観。そこから「生命の飛躍」-人類愛への道を拓く』

　　講師：瀧 一郎（たき いちろう） 大阪教育大学教育学部教授

② 政治・経済分野

　　テーマ：『岩倉使節団150年を機に「日本文明」の再興を考える

　　～受容する文明から需要ある文明へ～』

　　講師：瀧井 一博（たきい かずひろ） 国際日本文化研究センター教授

③ 科学・技術分野

　　テーマ：『「応用をやるなら基礎をやれ」化学者たちの京都学派

　　～福井謙一をはじめとする喜多源逸の後継者たち～』

　　講師：古川 安（ふるかわ やす） 総合研究大学院大学客員研究員

④ 体験学習（心身の学）：

　　テーマ：「アート思考」への誘い(いざない)

　　～「対話型鑑賞」と「哲学対話」の協働を通じて体得する「もう一つの知、身体知」～

　　講師：戸澤 幸作 京都市立芸術大学美術学部 講師

　　寺元 静香 大原美術館社会連携課（学芸員）

《2025年度の計画》

1) ジュニアセミナー

2025年度は、春季、夏季とも休講し、この間の10年に及ぶ実績を振り返るとともに、その効果を検証するため、受講経験者、講師、TAなどの関係者、また高等学校の関係者等からも広く意見を聴取し、専門家の意見もいただきながら、時代に即した教育学習の在り方を探究し、今後の展開方向を実践的に探ることとする。

2) 「ホームカミング」事業

過去にジュニアセミナーを受講した経験者と過去に TA (ティーチングアシスタント) として協力いただいた方々を対象とする「ホームカミング事業」は、第 1 回：2022 年 9 月 17 日（土）18 名参加、第 2 回：2023 年 8 月 26 日（土）12 名参加であった。2024 年度は、ホームカミング参加者や TA、特任研究員のメンバーで企画会議を重ね具体的な計画を立案、第 3 回ホームカミングを 2025 年 2 月 22 日（土）に対面方式にて開催した。参加者は 12 名（TA 代表／元 TA 代表含む）、テキストは「森鷗外に学ぶ～日本にも個人主義はありうるか～」（2016 年夏季ジュニアセミナーのテキスト）であった。

2025 年度は開催を見送り、「IIAS 塾ジュニアセミナー」の今後の在り方検討の動向を踏まえながら、今後の展開を整理する。

『3』 けいはんな学研都市における他機関との連携活動

(1) 「けいはんな万博2025国際シンポジウム」への取り組み

1) 背景と経緯

2025 年大阪・関西万博との連携を図る取り組みとして、2022 年 5 月に「けいはんな万博全体構想」が策定され、同年 10 月の「けいはんな万博準備会発足」を経て、2023 年 11 月 9 日に「けいはんな万博 2025 運営協議会」が組織され、共同代表に松本紘所長が就任した。

2024 年 11 月 30 日には、けいはんな万博 2025 プレイベントとして国際高等研究所 40 周年企画委員会と共に国際シンポジウム「不確実性とともに生きる一次世代への鍵 Embracing Uncertainty:A key for the Next Generation」を実施したところである。

けいはんな万博 2025 の開催テーマは「未来社会への貢献～次世代への解～」とし、2025 年 4 月から 10 月の期間を中心に、4 つのフェスティバル（「ロボットアバター ICT」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」）や国際会議をはじめ様々な催事を展開する。高等研は運営協議会の幹事およびサイエンス&アート部会の部会長を務めている他、国際シンポジウムの企画など当該催事の開催を推進し万博に協力していくこととする。

2) けいはんな万博 2025 国際シンポジウムの企画開催

けいはんな万博 2025 運営協議会における国際部会において行われる国際会議などの催事の企画を進めているところ、高等研においては、2024 年度に引き続き、国際シンポジウムを企画・開催する。

主旨：現代社会が直面する予測困難な不確実性のなかで、私たちは急速に進化する技術や未知の課題に直面しています。医学、人文などの視点から、人間と科学技術の共生や未来を切り拓くための智恵を探る。

テーマ：不確実性とともに生きる 一次世代への鍵（仮）

開催予定日：2025 年 9 月 21 日（日）午後

メイン講師：山中 伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所理事長・名誉所長

会場：けいはんなプラザ「メインホール」

開催方式：未定（ハイブリッド開催とするか否かなど）

主催：けいはんな万博 2025 運営協議会、国際高等研究所

3) けいはんな万博 2025 運営協議会サイエンス&アート部会での貢献

けいはんな万博 2025 運営協議会におけるサイエンス&アート部会では、FESTIVAL#4 のイベントとして、科学と文化が織りなす魅力的なプログラムを提供する計画である。

高等研からは、総務部長がサイエンス&アート部会の部会長の指名を受け、当該イベントの企画・推進役を通じて、けいはんな万博 2025 の成功に向けて協力並びに貢献を図ることとする。

(2) けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議との連携

1) けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議への参画

学研都市のみならず、関西全体を視野に入れた更なる交流・連携に向けて、13 大学・8 研究機関により、けいはんな学研都市「大学・研究機関」共創会議（座長：松本紘所長）が、2022 年 12 月にスタートし、○けいはんな学研都市の発信力の強化、○大学・研究機関の交流・連携の推進、○学研都市で取り組む最先端研究の「見える化」等の課題に取り組むこととなった。

2024 年度は 2025 年のけいはんな万博に向けた共創会議としての提言をまとめるべく活動を行っている。2025 年度は、けいはんな万博でまとめる「けいはんな宣言」の作成に協力していく。

2) 「学生の学生による学生のための教養講座」の実施

2023 年度において、共創会議の議論の中で「若い世代が、将来、幅広い分野で活躍するために、専門分野以外の多様な人材と交流できる場が必要」との意見が拡がり、高等研が新たな学生向けプログラム「学生の学生による学生のための教養講座」の企画を実施することとなった。目的は・若い世代の人材育成プログラムの展開（持続可能な方式）と国際高等研究所及びけいはんな学研都市の事業活動の情報発信である。

2025 年度においては、2024 年度に引き続き当該教養講座が有効に機能するように、共創会議及び学研都市推進機構と連携して実施する。

『4』 情報発信活動

(1) 交流活動内容に係る資料公開・情報発信

2023 年 12 月以来、交流事業により蓄積された知的資産を一般に公開を開始し、一般市民、学生らへの学びの機会を提供している。内容は 2013 年 8 月開始の「ゲーテの会」講演録に基づく「IIAS「ゲーテの会」ブックレット、及び 2016 年 3 月開始の「IIAS 塾ジュニアセミナー」メインテキストの 2 種類で、その合計は約 90 本に関して公開準備が完了したものから順次公開している。

2025 年 1 月末時点での公開件数は、『IIAS「ゲーテの会」ブックレット』42 件、『ジュニアセミナーテキスト』26 件となっている。2025 年度も、引き続き資料公開を継続する等情報発信に努め、一般の市民、学生などへの学びの機会を提供する。

(2) YouTube 動画発信事業

2020 年秋から、「ゲーテの会」で招聘した講師に、開始前に 10 分程度のショートイン

タビューを実施し、講演の趣旨や、学びの在り方、参考書籍等についてコメントを頂いている。編集した動画を YouTube 高等研チャンネルに「国際高等研究所メッセージ #X」と称して公開している。(公開件数：15 件 (2025 年 1 月現在))

なお、本動画は、「交流活動の資料公開」ページにもリンクを張って、活用の便を図っている。

(3) 成果の発信

広く社会の動向を見極めながら、高等研における高度な研究活動を踏まえた存在意義の更なる訴求方策の検討(広義の広報活動)を進めることとし、より広く一般を対象とする発信力の強化に努めることは、公益財団法人である高等研にとって社会から求められる要件でもある。

一方、2020 年 1 月に大口の個人寄付金の獲得となつたが、潜在的に社会貢献への強い意志をお持ちの篤志家が居られる状況を踏まえ、高等研の活動成果や存在意義を積極的に社会に訴求する中で、新たな寄付の申し出に繋がる可能性があり得ることを経験したことである。

「社会に向けての成果の発信」は、高等研全体の重要な課題として共通認識を持つ必要がある。2025 年度においても引き続き、効率・効果的な広報展開を実施することとともに、高等研の事業活動を広範に訴求することにより、更なる寄付や外部資金獲得に繋げる努力を行うこととする。

II. 法人運営

『1』 資産運用

資産運用の改善については、2018 年度に資産運用規程を改訂し、資産運用基準を見直し、2019 年度以降においては、投資対象範囲を株式にも拡げて資産運用方針(ポートフォリオ)を策定し、運用利回りの低い投資対象の見直しを図るなど、収益性と安全性のバランスを考慮した効率的な資産運用の改善に努めているところである。

2025 年度においても、引き続き下記の運用方針を基本とし、運用資産の見直しなどにより、3%を超える運用利回りを目指すものとする。

<運用方針>

次に示す①～④の指針に基づき、世界最大規模の資産運用者である年金積立管理運用独立行政法人の基本ポートフォリオ(従来の「国内株式、国内債券、外国株式、外国債券、各 25%」が今春に見直される予定)を参考として、異なる地域、通貨、資産(債券、株式、不動産)に分散投資する。

- ①運用益の追求：一定水準以上の安定的な利子配当益の追求
- ②評価益の追求：長期的な資産価値の増大
- ③運用元本の保全：価格変動リスクの抑制
- ④資産運用のガバナンス強化：組織内における資産運用方法の情報共有
また、投資対象とする資産は、次の条件のいずれかを満たすものとする。
 - ①価格の透明性、取引の流動性のある確立した市場(証券取引所など)で売買可能
 - ②投資適格格付けを有する

『2』経費支出に係る暫定措置の解除

2019年度から行っていた費用項目の節減策、2023年9月以降さらなる支出削減を行ってきたが、資金運用環境の改善により収支をバランスする見通しが立ったため、過度と思われる下記の暫定措置については、今年度の早期に解除することとする。

① 事業運営上及び職員出張時の日当の支給停止

② 事業運営上の謝金の減額 等

但し、経費節減策については、引き続き取り組むものとする。

『3』高等研施設の利用促進

文化学術研究の推進など法人の公益目的に資するイベント、セミナーなどについては、外部の研究機関・大学・企業などに積極的に働きかけて、高等研施設の提供を図ることとともに、2025年度は特に、けいはんな万博の来場者の拡大に貢献することを目指すものとする。

III. 2025年度（令和7年度）財務・収支計画

『1』経常収益

資産運用益は、2024年8月に運用資産の入れ替えを行ったことなどにより、前年比200万円増の1億4000万円を予定している（議案第2号1ページ①+②）。また雑収益について、「けいはんな万博2025」開催に伴い、昨年のプレイベントにつづき今期も「国際シンポジウム（仮題：不確実性とともに生きる一次世代への鍵）」等のイベントを開催するため、「けいはんな万博運営協議会」から共催分担金を收受することなどにより、前年比1000万円増の1600万円を予定している（同③）。

上記により、今期の経常収益は前年比1300万円増の1億7800万円を予定している（同④）。

『2』経常費用

けいはんな万博2025に伴うイベントの開催により、諸謝金（議案第2号2～3ページ⑤+⑥）や委託費（同⑦+⑧）等で930万円の費用増、ベースアップ等に伴う180万円の人事費増（同⑨+⑩）を予定している。一方、ジュニアセミナーの開催見合わせ等による旅費交通費の削減（同⑪+⑫）、また償却の進捗による減価償却費の減少（同⑬+⑭）などにより合計360万円の費用削減を見込んでいる。

上記により、今期の経常費用は前年比750万円増の2億1300万円を予定している（同⑮）。

『3』最終収支

上記により、今期の最終収支はマイナス3500万円、前年比では500万円の改善を予定している（議案第2号1ページ⑯）。なお、減価償却費用として5200万円を計上しており、キャッシュフロー収支は1700万円のプラスとなる予定である。

以上